

令和元年

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602984	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	
法人名	株式会社 ライフヘルプサービス		
事業所名	グループホーム ゆらり相模原		
所在地	(252-0135) 神奈川県相模原市緑区大島3246		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18 名	
		ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月17日

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔と真心で寄り添う介護を目標に、日々の生活の中でご利用者様一人一人が夢のある人生を送れるように支援しています。職員
員同士の情報の共有を大切に、働きがいのある職場作りを目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	令和2年2月18日	評価機関 評価決定日	令和3年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR横浜線、京王線「橋本駅」南口からバスで、「中の郷」下車、徒歩1分です。表通りから一本中に入った住宅地で、近隣には河川や公園など自然を感じる場所があります。玄関先は小学生の登校集合場所となっていて、子供の声我每天聞こえてきます。敷地内農園では、利用者が野菜を栽培し、調理しています。居室は、和室と洋室があります。

<優れている点>

職員は理念を暗証しており、会議開催時に唱和しています。もう一つの我が家で心穏やかに、その人らしい生活に向けた適切なサービスの提供を話し合っています。毎月開催の全体会議は、休日の職員も全員参加し、情報共有を図ると共に、今月の発表「自立支援」「仲間紹介」など議題を決めて発表し、職員の自己研鑽の機会ともしています。職員の提案で「ゴールド職員制度」、75歳以上80歳未満の職員も、月80時間の勤務が可能となっています。管理者は職員に声をかけ、相談にのり、ベテラン、新人共、利点を認め、尊重し合うなど人間関係も良好で、職員の在職年数も高く、働きやすい職場となっています。

<工夫点>

月2回「駄菓子屋さん」を開催し、多くの子ども達が買い物に来て、利用者で交流し、互いに楽しんでいます。散歩時は職員ジャンパーを着て、近隣住民と顔見知りとなり、理解に繋がっています。また、草取り活動や運動会の招待などを通して地域交流を図り、地域住民として生活できるように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ゆらり相模原
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「豊かな心で 夢のある人生を 共に生きる」 理念にそった事業所の行動方針を全職員で作っています。	4年前に全体会議で、「感謝の気持ちと言葉、信頼関係、安心安全で楽しい暮らし、目的のある生活」など、5項目の行動指針を立案しています。職員は理念を暗唱しており、会議開始時は唱和し、理念や行動指針に基づいた支援の実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し自治会行事の連絡があるときは参加しています。又、地域の方には行事の呼びかけなどを行っています。	どんと焼きや梅祭りなど、地域行事に参加しています。一方、ゆらり祭りや駄菓子屋など事業所行事に地域住民が参加しています。近隣散歩や地域の草取り活動、中学生の職場体験、小学校運動会への招待など、様々な年齢層と地域の繋がりがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご利用様が地域の高校に行きボランティア活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域自治会長、民生委員、高齢者支援センター、利用者、家族の参加を得てホームの状況、活動報告を行い意見交換を行っています。	年6回開催し、活動予定や実施、入居者状況、事故報告、各会議や研修、地域交流などを話し合っています。利用者作品展の開催予定、人権に配慮したチャイムでの防犯、職員の紹介写真の掲示など、出された提案に取り組んでいます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当部署と随時連絡を取り合い、推進会議案内、議事録、「ゆらり通信」、サービス状況を報告郵送しています。	区の高齢政策課、生活福祉課などと活動状況や経営状況、医療券発行、介護保険更新手続きなどについて、電話連絡や訪問、資料配布などを行っています。また、月1回、ケースワーカーが利用者に面会し、状況確認をするなど連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠はしていません。フロア毎に出入り口、玄関にチャイムを完備し自由に出入りできるようにしてあります。また、外部研修、内部研修を開催しています。	年6回、「身体拘束禁止委員会」を開催しています。管理者も参加し、スピーチロックや拘束をしないケアなどについて話し合っています。市の研修に参加し、内部研修で全職員に伝達し、共有しています。家族には拘束しない取組みの説明をし、理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入職時、また随時勉強会を実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて関係者と電話、封書で連絡しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、重要事項、利用契約書、運営規程を全て読み上げ説明し、同意後に契約書のサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入り口付近の投書箱を設置しています。定期的な推進会議を開催し意見を頂いております。随時、ご家族と話をする機会を設けています。	家族の来訪時は職員から積極的に声をかけ、計画書説明時にも意見や要望を聞き取っています。家族の要望で、請求書郵送時に、利用者の活動状況を載せた「ゆらり通信」を同封したり、職員紹介写真の掲示などに取り組んでいます。	毎月配布している「ゆらり通信」に運営推進会議の内容を載せるなど、運営に関する家族の意見や要望が広く収集できるような工夫も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月事業所で運営会議、全体・ユニット会議、各委員会を開催し管理者が出席し職員から直接意見を聞く機会を設けています。必要に応じて法人の経営会議に議案として吸い上げ検討しています。	各会議や委員会、個人面談（常勤は年2回、非常勤は年1回）で様々な議題を話し合っています。事業所運営や勤務体制、支援方法、目標管理など意見交換しています。職員の提案で「ゴールド職員制度」の策定や配置転換など職場環境の改善を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に「私の目標」を掲げてもらい向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体会議の場での勉強会、社内の基礎研修など研修を受ける機会を設けています。外部研修については随時参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市GH連絡会、他業種情報交換会などに参加しネットワーク作りに努めています。また、他施設の行事の参加も行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族様、ご本人様に入居前に生活状況をよく聞き、安心して生活できるように話し合いの時間を設けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日々の対応、生活状況を報告し、新しい情報を頂きながらご家族様との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に見学に来て頂き、ご本人、ご家族様と十分に話し合い、入居後は早く生活環境に慣れていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理、洗濯、掃除など一緒に行うなど、共に生活している関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との関係が薄れてしまわないよう、随時生活状況を連絡しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族との外出、外泊をすすめています。	年末年始や盆など、また、定期的に一時帰宅をしています。墓参りや馴染みのスーパーマーケットでの買物、飲食店での昼食などの外出、友人や家族などとの電話の取り継ぎ、年賀状や手紙の発送など、関係継続の支援をしています。家族参加の日帰り旅行も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	座席の配置など他利用者とよい関係が取れるように配慮したり、フロアで楽しい一時を過ごせるように作品作りやレクリエーションへの声掛けをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も他施設へ面会に行ったり、ご家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望をできるだけ取り入れるようにしています。困難な場合は、利用者様本位になるように話し合いをし検討している。	入浴介助時や居室担当者が利用者と1対1の時にゆっくり要望を聞いています。外食、料理やおやつ作り、カラオケ、ドライブなどの希望に対応しています。意思の表出困難な利用者は、生活歴や表情、行動から、本人に適した支援を検討して提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴をふまえてプランを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	観察を密にし、心身の状態、異常時の早期発見に努め、日々の申し送り、カンファレンス、各会議などで状況を把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が毎月モニタリングを提出し、ユニット会議、カンファレンスなどで日々の状況を報告、話し合いをしご家族の要望も踏まえた計画を作成しています。	介護支援専門員は、入居時に本人と面談し、情報や資料から暫定プランを作成しています。その後、入居後1ヶ月間の実施状況と利用者の様子から本プランを作成しています。毎月全体会議でモニタリングし、カンファレンスで家族も含め、サービス計画の継続や変更を話しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月カンファレンスを行い、日々の問題を共有しケアをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎月カンファレンスはもちろんのこと、問題が発生した時にカンファレンスを行い問題を共有しケアをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事等は可能な限り参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	歯科は毎週火曜日に往診。内科は隔週の水曜日に往診。内科に関しては夜間、休日でも緊急対応が可能です。	内科は月2回の往診で夜間・休日の緊急対応も可能です。歯科は週1回の往診で口腔ケアを行っています。看護師が週1回来訪し、利用者の体調チェックをしています。通院は職員が同行し、結果を電話などで家族に連絡しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡可能な状況です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は可能な限り面会に行き、病院関係者との情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様と同意書を作成し、終末期のあり方について共有しています。また、早い段階からご家族や病院関係者とも話し合いを行いチームで支援に取り組んでいます。	入居時に同意書を作成しています。医師が終末期と判断した際には改めて家族の意向を確認し、医師・職員・家族が協力して対応しています。看取りの経験も多く、外部研修に参加したり、社内の勉強会でも話し合いをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成しています。施設内にAEDを設置し職員全員が取り扱えるように勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	利用者様、職員の参加により防災訓練を行っています。 水分・食料については3日分の備蓄があります。	避難訓練は年2回実施し、1回は消防署立ち会いで行っています。夜間想定訓練では職員の少ない時間帯における避難経路の確認をしています。居室入口にぬいぐるみを掛け、避難済の目印にするなど工夫しています。備蓄品は安全衛生委員会管理しています。	自治会に避難訓練を提案するなど、地域住民参加の避難訓練を行い、地域との協力体制の構築も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に応じた声掛けを心がけています。	誇りやプライバシーを損ねないように、その人に応じた言葉かけを心掛けています。入居期間の長い利用者にも馴れ馴れしくならないように、会議や勉強会で職員同士で注意をしています。個人ファイルは事務所内で保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事においてもご本人の意思を尊重し希望はできるだけ聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切にし、ご希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理美容師の訪問があります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り、配膳、片付けも共にし、誕生日や行事などの献立作りの際にも好みを活かすようにしています。	外部の宅食業者から食材やメニューが届き、職員が手伝いの出来る利用者と一緒に調理しています。誕生会や七夕などの行事の際は、利用者の喜ぶメニューを工夫しています。近くの観光地まで外出し、ラーメンや焼きそばなどの外食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日を通して随時水分補給をしています。食事摂取量を記録しています。1人ひとりの状態に応じた食事形態にするなどの支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後職員と共に口腔ケアを実施し、自立されている方は見守りをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限りトイレ誘導を行っています。	トイレでの排泄が出来るように自立に向けた支援を行っています。排泄パターンはタブレットを使い管理し、トイレ誘導を行っています。日中のおむつ使用者はなく、多くの利用者が自分でトイレに行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいます。	飲食物の工夫や散歩への声掛け等をし、個々に応じた予防に取り組んでいます。医師との連携も取るようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間は決まっていますが、本人の体調やタイミングに合わせて入浴しています。	入浴は週2回、1日3名ずつ午前中に行っています。車いすの利用者もシャワー浴で、1対1での会話を楽しみながら入っています。職員は、傷やあざはないかボディチェックもしています。入浴を嫌がる利用者には気長に声かけし、入浴に繋がるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の好きな時間に休息したり、眠ってもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の理解に努め、症状の悪化の確認に努め、薬剤師との連携も取るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、片付けなど役割を決め実施しています。個々に合わせた散歩、手工芸など気分転換デイkる様に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の対応は出来る範囲で行うように努めています。その他、数名ずつ利用者の希望や体調に合わせて外出しています。日常の散歩などは個別に対応しています。	天候のよい日に公園や河原を散歩しています。散歩に揃いのジャンパーを着て出かけ、顔なじみになった近所の小学生と会話を楽しんでいます。年1回はバスを借りて遠出の外出も計画し、利用者・家族の楽しみとなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日用品や嗜好品の購入の際はご本人のお金を支払うことにしています。外出の時などはご本人の希望に応じて使えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様から電話する事が出来る方は自ら電話しています。また、ご家族から電話を頂けるように働きかけをしています。個別に携帯電話の使用もされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁などに作品を展示したり、テーブルに季節の花を飾るなど季節感を取り入れる工夫をしています。	共有空間の壁面には、利用者が作ったカレンダーや季節感の感じられる多くの作品が飾られています。オープンキッチンから見渡せる明るい居間の中心にテーブルが置かれ、利用者はテレビを見ながらくつろいでいます。動線に配慮し、生活しやすく工夫してあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内に椅子を多く配置し、自由に腰掛けることができるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、不安のないような環境作りに努めています。	和室4、洋室5の居室があり、和室には押入れが、洋室にはクローゼットが備わっています。家族の写真を飾ったり、仏壇を置いたり、自由に持ち込んでいます。退居者が残していった物を、次の利用者が使用するなど有効活用が来ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	居室、トイレなど利用者様が理解できるよう貼紙をしたり目印をつくり混乱がないようにしています。		

事業所名	グループホーム ゆらり相模原
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「豊かな心で 夢のある人生を 共に生きる」 理念にそった事業所の行動方針を全職員で作っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し自治会行事の連絡があるときは参加しています。又、地域の方には行事の呼びかけなどを行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご利用様が地域の高校に行きボランティア活動を行っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域自治会長、民生委員、高齢者支援センター、利用者、家族の参加を得てホームの状況、活動報告を行い意見交換を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当部署と随時連絡を取り合い、推進会議案内、議事録、「ゆらり通信」、サービス状況を報告郵送しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠はしていません。 フロア毎に出入り口、玄関にチャイムを完備し自由に出入りできるようにしてあります。また、外部研修、内部研修を開催しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入職時、また随時勉強会を実施しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて関係者と電話、封書で連絡しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、重要事項、利用契約書、運営規程を全て読み上げ説明し、同意後に契約のサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入り口付近の投書箱を設置しています。定期的な推進会議を開催し意見を頂いております。随時、ご家族と話をする機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月事業所で運営会議、全体・ユニット会議、各委員会を開催し管理者が出席し職員から直接意見を聞く機会を設けています。必要に応じて法人の経営会議に議案として吸い上げ検討しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に「私の目標」を掲げてもらい向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体会議の場での勉強会、社内の基礎研修など研修を受ける機会を設けています。外部研修については随時参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市GH連絡会、他業種情報交換会などに参加しネットワーク作りに努めています。また、他施設の行事の参加も行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族様、ご本人様に入居前に生活状況をよく聞き、安心して生活できるように話し合いの時間を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日々の対応、生活状況を報告し、新しい情報を頂きながらご家族様との関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に見学に来て頂き、ご本人、ご家族様と十分に話し合い、入居後は早く生活環境に慣れていただけるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理、洗濯、掃除など一緒に行うなど、共に生活している関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との関係が薄れてしまわないよう、随時生活状況を連絡しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族との外出、外泊をすすめています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	座席の配置など他利用者とのよい関係が取れるように配慮したり、フロアで楽しい一時を過ごせるように作品作りやレクリエーションへの声掛けをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も他施設へ面会に行ったり、ご家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の希望をできるだけ取り入れるようにしています。困難な場合は、利用者様本位になるように話し合いをし検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴をふまえてプランを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	観察を密にし、心身の状態、異常時の早期発見に努め、日々の申し送り、カンファレンス、各会議などで状態を把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が毎月モニタリングを提出し、ユニット会議、カンファレンスなどで日々の状況を報告、話し合いをしご家族の要望も踏まえた計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月カンファレンスを行い、日々の問題を共有し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎月カンファレンスはもちろんのこと、問題が発生した時にカンファレンスを行い問題を共有しケアをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事等は可能な限り参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	歯科は毎週火曜日に往診。内科は隔週の水曜日に往診。内科に関しては夜間、休日でも緊急対応が可能です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡可能な状態です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は可能な限り面会に行き、病院関係者との情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様と同意書を作成し、終末期のあり方について共有しています。また、早い段階からご家族や病院関係者とも話し合いを行いチームで支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成しています。施設内にAEDを設置し職員全員が取り扱いができるように勉強会を開催しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	利用者様、職員の参加により防災訓練を行っています。水分・食料については3日分の備蓄があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に応じた声掛けを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事においてもご本人の意思を尊重し希望はできるだけ聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切にし、ご希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に理美容師の訪問があります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り、配膳、片付けも共にし、誕生日や行事などの献立作りの際にも好みを活かすようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日を通して随時水分補給をしています。食事摂取量を記録しています。一人ひとりの状態に応じた食事形態にするなどの支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後職員と共に口腔ケアを実施し、自立されている方は見守りをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限りトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいます。	飲食物の工夫や散歩への声掛け等をし、個々に応じた予防に取り組んでいます。医師との連携も取るようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間は決まっていますが、本人の体調やタイミングに合わせて入浴しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の好きな時間に休息したり、眠ってもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の理解に努め、症状の変化の確認に努め、薬剤師との連携も取るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、片付けなど役割を決め実施しています。個々に合わせた散歩、手工芸など気分転換できる様に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の対応は出来る範囲で行うように努めています。その他、数名ずつ利用者の希望や体調に合わせて外出しています。日常の散歩などは個別に対応しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日用品や嗜好品の購入の際はご本人のお金を支払うことにしています。外出の時などはご本人の希望に応じて使えるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様から電話する事が出来る方は自ら電話しています。また、ご家族から電話を頂けるように働きかけをしています。個別に携帯電話の使用もされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁などに作品を展示したり、テーブルに季節の花を飾るなど季節感を取り入れる工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内に椅子を多く配置し、自由に腰掛けることができるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、不安のないような環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室、トイレなど利用者様が理解できるよう貼紙をしたり目印をつくり混乱がないようにしています。		

2019年度

事業所名 グループホームゆらり相模原

作成日： 2020 年 2 月 16日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		家族アンケートの結果を見て、やはりご利用者様の施設での様子を、もっと知りたい、職員一人一人の名前を知りたい等が書かれている。	日常の様子が少しでも感じて頂けるよう、毎月の近況報告が出来る手紙の作成。職員、名札着用の徹底。	日々のレクリエーション・行事・散歩や食事等の場면을写真に残し「ゆらり通信」という媒体を作成し、ご家族に発信する。職員出勤時に名札着用の徹底。	6ヶ月
2		ご家族に「会いたい」「帰りたい」気持ちの尊重。	ご利用者様にとって、ご家族の面会以外、ご本人の意思でつながることが出来ない為、ご家族にアプローチしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ご家族への面会を促す。 電話での会話する機会を設ける。 ご家族に手紙を書くことへの支援。 	12ヶ月
3		一人一人の思いを把握し、本人本位の生活が出来るよう支援する。	ご利用者様の思いや願いを一つでも多く引き出すため、アセスメントやカンファレンスを大事にし、その人らしさを追求し、ケアプラン作成に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> 問題が発生した時は、すぐにカンファレンスを開催する。 チームでの情報共有の充実を図る。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月